別　紙

1日目　12月9日（土）

午前中は、京都駅から筑波大学への移動。お昼に筑波大学へ到着し、午後のプログラムの準備を行いました。
午後から、筑波大学特別学長補佐清水　諭先生によるキャンパスツアーに出かけ、体育・芸術・医学等の研究機関や企業と協働できる環境施設などを見学させていただきました。
プログラム①では醍醐　笑部先生（筑波大学体育系助教授）より、SPORTS ＆EVENTS MANAGEMET（オリンピックを支える人々）について、スポーツイベントを進めるために大切な視点や未来のオリンピックで出来ることなどを中心にお話をしていただきました。全て英語による説明となり、内容を理解するまでに時間がかかりました。
プログラム②では、戸村　貴史先生（大学院 体育科学学位プログラム）より、トレーニング（TGFU）（Teaching Games For Understanding）を中心に行いました。TIASで学ばれている留学生の方々にも指導いただき、お世話になりました。
最初に英語での自己紹介を参加者全員の前で行いました。緊張しながらも自分の好きな食べ物やお気に入りのスポーツなどを伝え、英語で発信する良い機会となりました。
ボールを使った様々なトレーニングでは留学生と一緒に活動し、きっずたちも積極的にコミュニケーションを図るなど、楽しい雰囲気の中で、取り組むことができました。運動量があるだけでなく、考え、判断し、声をかけるなど、頭を使いながらのトレーニングとなりました。
夜には、ホテル大広間にて本日のプログラムを振り返り、成果と課題等について発表しました。

2日目　12月10日（日）

午前のプログラム③では大林　太郎先生（筑波大学体育系助教授）より、OVEP（オリンピック価値教育）についてお話をしていただきました。
「アスリートとしてのコンディショニングを考える」というテーマで、食事・睡眠・ストレスマネジメントについて考えました。それぞれグループで話し合い、考えた内容について英語で発表を行い、堂々と発表する姿を見ることができました。少人数のグループワークで、留学生とより多くの交流をすることができ、英語での直接的な対話の時間が多く、充実したプログラムとなりました。英語での発表に向けて、担当していただいた先生方には、丁寧に御指導をいただきました。
筑波大学の多くの先生方や留学生の方にお世話になり、この2日間は多くの外国語に触れるよい体験となりました。2日間のプログラムでしたが、TIASの留学生さんとも気軽にコミュニケーションをとるなど、きっずそれぞれが国際的な感覚を身につける良い機会となりました。
今回、学ばせていただいた事はこれからの競技生活や日常生活に生かすことができる、実りある国際経験プログラムとなりました。